

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(保健体育) / 南 隆尚

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の向上」は、常に夢や目標を持ち、自己を省察的な視点をもって改善と向上心を失わないことと考える。そのために目標となる教師像を描き、高度職業人となれるよう自己研鑽する習慣を身につけることが重要と考える。

体育・保健体育教員として、その能力を育成するためには、まず自身に高い課題発見力と実技能力を習得し、明確な師範と指導力に重点をおく。そのために本学の特徴を生かし、①授業を学校現場や生徒像を描いた具体的な内容にし、②小グループや個別指導も取り入れた授業方法をとる。また③できる・できないと言った観点ではなく、課題に対し、丁寧に問題に取り組む態度とその出来映えを成績評価に反映したい。また社会人としての教養と健康づくりが必要である。私の担当する教養体育の授業では①内容として健康感や生涯スポーツの視点に重点を置いたを授業を展開し、②定時の授業では運動の習慣化を、集中授業では自己肯定感を育成するような授業を内容とする。③それぞれ授業への参加態度や自己認識を成績評価を盛り込む。

2. 点検・評価

課題である高度職業人育成を目指し、各授業で取り組んだ。中間報告でも挙げた「阿波学」や「健康・スポーツ科学II」などでは少なからず積極的な態度の育成に寄与できたと思う。しかし専門となる授業では、ここ数年学生の取組態度が消極的であり、それを転化するには至らなかった。特に経済的な問題かもしれないが、活動に関して安価でも有料となるような学外授業など自己投資となるようなものへの参加者が減少しているように感じる。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- 講義においては小テストを実施し、基礎的な学力を習得できるよう授業方法を工夫する。授業評価を参考に、昨年度から資料の配布を減らし、ノートに筆記するよう指導する。特に学校現場での体育理論取り扱い旧態善たる状態が続いている。クラブ指導を希望する学生も多く、最新のコーチングについて取り入れていく。
- 発言・討論の場面を設け、自己肯定力と同時にコミュニケーション能力の育成を狙う。また授業への積極的な参加を促し、教師としてのプレゼン能力の向上を図る。
- 実習においては、野外での活動を伴うことが多く、事前のオリエンテーションを充実したものにし、安全かつ自律的に参加できるよう工夫する。実技に関して「リスクマネジメントの観点」を設け、教員としての危機意識を高める。
- 研究に関するゼミ活動の他、指導教員に関わらず学生に時事の諸問題を取り上げ発表してもらう時間を共同で設けている。学生の言語能力に役立つため今後も継続して実施する。
- 実技指導において、教員採用試験対策をはじめ、積極的に指導機会を設ける。

2. 点検・評価

講義における小テストの実施や、学外実習など、履修者への態度の変容には少しずつ成果が上がっていると感じる。ただし、授業での積極的な態度の育成などに問題が残った。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

昨年度、渦潮高校との連携や近隣の野外活動団体での連携など外部から多くの情報を得ることができた。学校での問題点とその使命を明確にし、野外教育については臨床的なアプローチを行う活動に新たな教育・研究方法を開発を進める。また引き続き、大学周辺・徳島県下の自然を利用したプログラムの開発する。水泳教育については新指導要領実施と学校水泳の問題点について、引き続き調査・研究を進めたい。また自身の専門競技とする水球においては、国際大会等を視察し、コーチングやゲーム分析の研究を進める。さらに一昨年の内地研修の課題である水泳巻き足の推力測定については圧力センサーや牽引測定器など未だ解決できない問題が多いが実験を繰り返し成果を得たい。ジュニア期における柔軟性とコーディネーションについては、バレエの動きを取り入れた股関節や足・脚などの動作向上や障害予防を目的としたトレーニング法を開発し、サッカーを中心に普及を進めたい。

2. 点検・評価

野外教育や水泳競技、コーチング、トレーニングに関する研究は順調に進んだ。しかし、大学として主に取り組むべき学校水泳や水泳指導、また巻き足に関する実験については十分な時間が取れず、遅滞した。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- 現在、就職委員や衛生委員各種を務めている。特に就職支援活動には積極的に参加したい。
- カリキュラムマップの作成に寄与し、教育大学として先駆的な取り組みに助力したい。
- 課外活動など学生との交流を持つことにより、学生の立場での意見を大学運営に活かす。
- 野外活動施設の整備ならびに維持管理を積極的に行う。
- 大学の将来像に寄与しうる発信を心がける。

2. 点検・評価

年度目標で掲げた各委員としての活動は十分に果たせたように考える。
また野外活動施設の整備などを積極的に行った。
部活動については、学生の参加人数が激減し、様々なアプローチをしているが継続が難しい状況となっている。
大学将来像に寄与する情報について積極的に活動し、関係協議会にも出席している。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

- 新たに幼児教育に関わる授業を担当するにあたり、幼年発達コースとも連携を摂りながら、世附属幼稚園の活動に協力する。
- 民間スイミング設立や学校プールの老朽化に伴う、学校水泳の崩壊が始まっている。教員間・学校間・官民間の協働関係のマネージメントを考慮した活動を行う。
- スポーツ振興について、日本水泳連盟、徳島県体育協会の活動に協力する。
- 救急法などの安全教育に関わり、徳島県教育委員会、日本赤十字の活動に協力する。
- 川での環境・教育活動をすすめる「川の学校」に助力する。

2. 点検・評価

渦潮高校との連携事業に積極的に行っている。
日本水泳連盟や体育協会の活動に寄与している。
「川の学校」に関係スタッフを派遣し、活動協力を行っている。
日本赤十字の救急法講習会などを学内で開催している。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

--